



学校通信

令和元年11月1日
東京都立葛飾盲学校長
田島 忍
(第8号)

「見えにくい」お子さんのことを理解するために

主幹教諭 丹羽 弘子

一般に視覚障害者というと、全盲（見えない状態）の人をイメージすることが多いようですが、実際には弱視（見えにくい状態）の人も多くおり、身体障害者手帳の対象になっています。ここでは「見えにくい」お子さんの理解について、2つのキーワードを挙げて考えます。当事者の方にとっては復習のような内容になりますが御容赦ください。

〈弱視者の「分かりにくさ」〉 1つ目のキーワードは「分かりにくさ」。一口に「弱視」といっても、見え方は十人十色、一人一人違います。その人の見え方そのままを当事者以外の人が分かるように再現することは難しく、「このように見えているようだ」と推測しながら支援の方法を考えます。保有視力を活用して行動している本人の様子が、周囲の人には、見えているような印象をもたせ、見えにくいことを理解しにくい状況です。更に、先天性の弱視の場合、見えにくい状態が本人にとって当たり前であるために、小さいお子さんには困り感がありません。「ぼく、ちょっと見えにくいので、教えてください」という訴えが、小さなお子さんから出ることはほぼありません。弱視の実態は、本人にとっても周囲にとっても、分かりにくい状況であることを踏まえたいです。

〈個に応じた適切な支援の「難しさ」〉 2つ目のキーワードは「難しさ」。見えにくさの状態が十人十色であるために、個々の状態に応じた教育（トレーニング）・援助（ヘルプ）が必要で、その方法は一人一人違います。視覚補助具の、何を、いつから、どの倍率のモノを使うかという選定も十人十色。見やすさへの環境整備も十人十色。まぶしさが苦手な人もいます。視野が狭い人もいます。色覚が正しくとらえられない人もいます。一概に「目が悪いから、明るく、大きく、色分けして」ということで、合理的な配慮がなされた、とはいえません。

盲学校は、以上2つのキーワードを踏まえ、お子さんの自立を志向し、分かりやすく、楽しく学べる教育環境を、御本人、保護者の皆様と一緒に考えていく所存です。今後とも御理解と御支援をよろしくお願い申し上げます。

〈南綾瀬地区センター祭り〉

10月19日（土）、本校から徒歩5分ほどの距離にある、南綾瀬地区センターにて、「南綾瀬地区センター祭り」が行われました。本校からは、全校の幼児児童生徒が参加し、合唱「パプリカ」「カントリーロード」を披露しました。伴奏は、中学部の生徒が弾いたピアノの音源を使用しました。きれいな伴奏の音色にのせて、みんなで心をつなげて、元気な声で発表することができました。発表後は出店で購買体験をしました。焼き鳥やフライドポテト等、各自が好きなものを購入し、楽しむことができました。〈文責：石川〉

